

平成 27 年度事業報告書

当法人の平成 27 年度の事業につきましては、法人の理念であります、「“今を生きる“すべての入所者・利用者様一人ひとりへ、優しく温かみのある看護、介護に真摯に取り組み、地域の皆様から信頼され愛される施設を目指します」の実践に向け全役職員が一丸となり努めてまいりました。

平成 27 年度の運営については、前年度決算が非常に厳しい収支状況であったことを踏まえ、適正な介護業務且つ適正な収支状況を両輪として取り組んでまいりました。平成 27 年度決算は、事業活動収支損益 30 百万円となりました。27 年度の決算を検証しますと、年間のサービス活動収入が 1,090 百万円となり、前期比 32 百万円増加したこと、減価償却費が 7 百万円減少したこと、新会計移行等による特別損益が 23 百万円計上となったことが利益計上の要因であります。法人全体の 4 拠点の介護保険収入及び老人福祉事業収入合計は、1,090 百万円となり前期比 32 百万円増加しましたが、サービス活動費用は年間 1,087 百万円前期比 11 百万円の増加となり、事業活動サービス収支差額は 3 百万円の結果となった。以上より平成 27 年度の実質当期活動収支利益は約 8 百万円でありました。全事業所の全職員が、入居者・利用者様へのより良い介護と、入居率・利用率等の向上に懸命に取り組みましたが、平成 27 年度の介護報酬の改定は予想以上に重く、特に特養拠点においては入所基準の改定も相まって苦戦をいたしました。

平成 27 年度の主な取り組みとしては、法人の適正な運営、利用者の目標、利用率の向上、新会計基準への移行、施設整備管理、人材育成、ガバナンス強化、事業運営の透明性向上、職員のコンプライアンス意識向上を事業計画に掲げて取り組みました。また、厚生労働省より示されている社会福祉法の改正の施行を鑑み、対策強化並びにこの地域において介護事業を継続するための来年度以降の「当法人の有り方」について、創意工夫を重ね法令を遵守し地域に貢献していくことを考えております。

適正な運営につきましては、27 年度の鳥取県の法人監査、施設監査の指摘事項等の改善を図り、今後活かすよう取り組みました。法人内の監事監査を年間 5 回実施し、法人内の牽制体制の強化と、改善事項の指導により適正な運営に鋭意努力してまいりました。また、ガバナンス強化につきましては、役員と施設長による施設長会を、常勤理事、施設長、本部課長により、毎月施設長会を実施した。法人運営方針の共有、現状把握、問題点・改善点の討議、コンプライアンス遵守体制の構築と確認等を行い、全職員へ浸透するよう取り組みました。運営の透明性については、当法人の運営状況全般をホームページへ掲載し、広く公開しております。また、八頭町、若桜町の担当課、他の法人の介護支援専門員等を招き、当法人の運営について意見交換等を実施いたしました。

新会計基準移行については、関係官庁、税理士等の指導を仰ぎ、新会計制度の規定を遵守し、適正な事務処理に取り組みました。

利用率の向上につきましては、現在当法人施設に入所申込みをしておられ、待機してお

られます本人様、ご家族様に対して、定員空き床とならないようご案内することが、施設運営の使命と考え、相談員が日頃より声掛けを実施して取り組んでおります。通所・リハビリ事業所においても、定員空き情報等を多くの他の介護支援専門員等の皆様へ共有して、リハビリを行いたい利用者様へ早期に利用していただきたいと考え取り組んでおります。一人でも多くの利用者様へ利用していただき運動機能を向上維持していただくことを願い取り組んでいます。

予防介護については、八頭町委託のはつらつ教室を、年間36回開催し（毎週日曜日）予防事業に取り組みました。今後も、予防介護の委託事業に積極的にかかわり地域貢献活動に取り組んでまいります。

人材育成については、研修委員会による公正な研修仕分けの実施、外部研修参加者は計画どおりの研修参加となりました。各種委員会による勉強会も定例的に開催しました。外部研修参加の伝達講習会は実施しているものもありますが、法人内研修の充実を図ることと合わせ今後の課題もあります。

施設整備管理につきましては、法令で定められている防火・避難訓練の実施、設備点検、建物・付属建物の点検により、利用者様、職員がより良い環境の中で、安心、安全に暮らしていただけますように考え取り組んでまいりました。また、早期点検による建物・設備の整備により、大切な資産をより有効に安全に長く利用をすることを考え取り組んでいます。

平成27年度はすこやか新聞にあたる、「あったかサポートすこやか」を年5回発行し、八頭町、若桜町、旧八頭郡へ9,000部お届けしております。発行誌へは、当法人の運営状況等に加え、介護にかかわる相談窓口の案内や、当法人の専門員であります、管理栄養士、作業・理学療法士等により、日常の生活の中で感染症予防法や自宅におけるリハビリ等の紹介を取り入れお届けいたしました。平成28年度もお届けするよう考えております。

当法人は、この地域の介護にかかわるすべての業務に積極的にかかわり、地域の皆様から信頼いただけますよう心を込めて運営に取り組み、地域の皆様と共に歩んでいく所存であります。

1. 平成 27 年度の事業概況

(1) 利用率

	老健	特養	ケアハウス	小規模 特養	多機能	通所介護	通所 リハビリ	訪問介護
利用率(%)	96.6	93.5	90.5	98.1	85.6	75.4	78.4	—
前年度比	+16.1	△2.6	+2.5	+2.0	+7.0	+3.0	△4.8	—
平均(人)	73.6	74.8	45.3	28.5	21.5	30.4	17.9	11.6
前年比	+4.6	△2.1	+1.4	+0.6	+1.8	+1.3	+1.2	+0.1

平成 27 年度年間利用率は、老健が前年度比+16.1 ポイントと大きく伸びた。通所リハは 9 月に定員を 20 名から 25 名としたため、利用者は増えたが利用率は 4.8 ポイント減少した。

(2) 利用者の目標

利用者がその日の目標を立て、目標に向かって行動することをサポートすることで、利用者が目標達成の喜びを感じていただく取組を実施しました。前年度に引き続き「自己選択」「自己決定」「自己遂行」ができるよう取組み、「すこやかにいけば元気になる、今日を生きる、明日を生きる」をコンセプトとして行いました。

老健におきまして、音楽療法を日中に取り入れ実施しています。平成 27 年 1 月より平成 28 年 5 月まで（継続中）全 12 回認定音楽療法士を招き、音楽をコミュニケーションの手段として活用し、自己表現ができるような効果を期待して実施しています。現在までの取組の入所者の効果については、①活動の中で積極的に体を動かすようになった。②コミュニケーションをしっかりととれるようになった③「音楽が好きで楽しみだ」と話すまでになった。以上より入居者に生きがいを持ってもらえるようになり、表情豊かに生活する手段となるものと考えます。現在も継続中であり、更に観察をして効果を検証していきます。

通所介護事業所では、昔を思い出し、「ぞうきんの作成 100 枚の実施」「たまご焼きの実施」「お好み焼きの実施」「手作りおやつの実施」等により、通所の皆様の、自分自身で、作る、造るの実施により自立効果が表れています。

通所リハビリにおいては、「家事ベリ」と題して、家事をすることでリハビリ効果を考案し、通所者にできる家事（イモ、人参等の皮むき、洗浄作業等）を行っていただいています。リハビリを兼ねた作業により運動・作業機能の向上と自立効果が着実に表れています。

「すこやかにいけば元気になる」取組みは、効果が表れてきています。

(3) 収支状況

平成 27 年度の事業活動収支は、収支差額 30 百万円の計上を図れた。内訳はサービス活動収支 3 百万円、サービス外収支 4 百万円、特別収支 23 百万円であった。特別収支 23 百万円は、新会計移行等にかかわる特別収益。介護保険事業収入及び老人福祉事業収入は、老健拠点 483 百万円（前年比 34 百万円）、特養拠点 349 百万円（前年比△16 百万円）、きたやま拠点 189 百万円（前年比 14 百万円）、ケアハウス拠点 69 百万円（前年比 1 百万円）となった。法人全体 1,090 百万円となり前期比 32 百万円増加した。

支出においては、人件費・事務費・事業費が 998 百万円前期比約 10 百万円増加した。収支差額は 30 百万円であるが、新会計移行等にかかわる特別利益を考慮すると、実質収支差額は、約 8 百万円であった。

前述の事業報告にて説明のとおり、全職員の懸命の取組により前年度より介護保険収入は32百万円増加したが、介護報酬改定は予想以上に重く収益が上がりなかった。

2. 平成27年度の課題への対応

(1) サービスの質の向上

① 専門的知識の習得

平成27年度も研修計画に沿って多くの研修を実施し、職員のレベルアップに取り組みました。また、自己啓発意欲を持って、働きながら上位の資格に挑戦する職員の中から、27年度は介護福祉士4名・管理栄養士1名・介護支援専門員1名の合格者がありました。

また介護職員の中から看護職取得を目指す職員があり、平成27年度末に東部医師会看護専修学校を卒業した1名が、4月から准看護師として老健に勤務しています。(奨学金制度利用で資格取得後5年間は法人在籍規程)

(2) 施設運営

① 効率運営

光熱水費(4施設合算)

(単位：千円)

	電気代	上下水道代	ガス代	合計
年額	22,229	10,897	5,543	38,669
増減額	△952	+1,068	△771	△655
前年比	95.9%	110.9%	87.8%	98.3%

引き続き、経費の節減を目標に掲げてきました。結果、電気代とガス代は前年度に比べ減少しましたが、上下水道代が増加しました。

光熱水費の合計は38,669千円(前年度比655千円減少)となり、2か年度連続の減少になりました。

② 地域密着運営

地域密着の面では、平成27年度も利用者・ご家族・地域の多くの皆様へおいでいただき、盛大に納涼祭を開催、納涼祭は夏休み最後の郡家周辺のイベントとして定着してきた。雨天のなかであったが、600名前後の方においでいただきました。また、きたやま納涼祭を開催し、利用者・ご家族・多くの地域の皆様においでいただき盛大な会となりました。

一方、町内各保育所、郡家東小学校、郡家西小学校、八頭中学校ワクワクやずの皆様とも、例年通りに施設に来所いただき交流を進めました。

27年度も各施設ともに、たくさんのボランティアの方にお世話になりました。全施設で平成27年度1年間に団体25グループ、個人ボランティア25名、延べ436名の方においでいただきました。平成28年3月31日に開催したボランティア交流会には、11団体19名の方の参加があり、活発な意見交換や歌の披露等を楽しみ開催いただきました。

地域の方に支えていただく取り組みの一環として、規格外等で食べることに全く問題ない野菜等をいただき、入所者の皆様に地元の食材を食べていただき元気になっていただくような取組を実施しました。細田監事を中心に、大門地区から出荷できない花御所柿を132箱いただき、入所者、職員がありがたくいただきました。きたやまにおいても4、5名の近所の方から、厚意で野菜の差し入れを頂き食事に利用させていただきました。

3. 理事会・評議員会・監事会等

(1) 理事会

日付		報告・議案事項
1	H27. 5. 20	第1回理事会 理事7名、監事3名出席 報告①平成26年度決算監査報告 議案①平成26年度事業報告 ②平成26年度決算報告 ③給与規程の一部改正 ④個人情報保護規程の制定 理事長専決事項報告①契約事務取扱規程の制定
2	H27. 10. 16	第2回理事会 理事7名、監事3名出席 報告①平成27年8月までの事業報告 ②平成27年8月末の会計報告 ③監事監査報告 議案①平成27年度資金収支補正予算 ②評議員の選任 ③監事監査指摘事項への対応 ④苦情対抗規程の制定
3	H27. 11. 9	第3回理事会 理事7名、監事2名出席 議案①理事長の互選 ②副理事長、専務理事、常務理事の指名、承認 ③定款細則の改正
4	H27. 12. 21	第4回理事会 理事7名、監事3名出席 報告①監事監査報告 議案①監事監査指摘事項への対応 ②役員等報酬及び費用弁償規程の制定 ③旅費規程の一部改正 ④特定個人情報等取扱規程の制定 理事長専決事項報告 ①事務決裁規程の制定 ②備品管理規程の制定 ③公印管理規程の一部改正 その他○第三者員会の開催状況
5	H28. 1. 15	第5回理事会 理事5名、監事3名出席 報告①平成27年12月までの現況報告 ②平成27年11月末の会計報告 ③第三者員会の開催状況
6	H28. 3. 28	第6回理事会 理事7名、監事1名出席 報告①平成28年2月までの現況報告 ②平成28年1月末の会計報告 ③平成27年度社会福祉法人指導監査の結果報告 ④監事監査報告 議案①平成27年度資金収支補正予算(案) ②平成28年度事業計画(案) ③平成28年度資金収支予算(案) ④平成26年度資金収支補正予算書及び決算書の一部修正

	<ul style="list-style-type: none"> ⑤施設長の交代 ⑥定款細則の一部改正 ⑦役員等報酬及び費用弁償規程の制定 ⑧役員退任慰労金規程の改正 ⑨給与規程の一部改正 ⑩平成 27 年度社会福祉法人指導監査における是正・改善状況の報告 <p>理事長専決事項報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ①慶弔規程の一部改正 ②文書保存規程の制定 ③法令遵守マニュアルの改正 <p>その他①利用者家族から寄せられた苦情への対応</p>
--	---

(2) 評議員会

日付		報告・議案事項
1	H27. 5. 20	<p>第 1 回評議員会 評議員 13 名、監事 3 名出席</p> <p>報告①平成 26 年度決算監査報告</p> <p>議案①平成 26 年度事業報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ②平成 26 年度決算報告 ③理事の選任 <p>理事長専決事項報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ①給与規程の一部改正 ②個人情報保護規程の制定 ③契約事務取扱規程の制定
2	H27. 10. 7	<p>第 2 回評議員会 評議員 12 名、監事 3 名出席</p> <p>報告①平成 27 年 8 月までの事業報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ②平成 27 年 8 月末の会計報告 ③監事監査報告 <p>議案①平成 27 年度資金収支補正予算(案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ②理事の選任 ③監事の選任 ④苦情対応規程(案)の制定
3	H28. 3. 23	<p>第 3 回評議員会 評議員 13 名、監事 3 名出席</p> <p>報告①平成 28 年 2 月までの事業及び現況報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ②平成 28 年 1 月末の会計報告 ③平成 27 年度社会福祉法人指導監査の結果報告 ④監事監査報告 <p>議案①平成 27 年度資金収支補正予算(案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ②平成 28 年度事業計画(案) ③平成 28 年度資金収支予算(案) ④平成 26 年度資金収支補正予算書及び決算書の一部修正 ⑤施設長の交代 ⑥定款細則の一部改正 ⑦役員等報酬及び費用弁償規程の制定 ⑧役員退任慰労金規程の改正 ⑨給与規程の一部改正 ⑩平成 27 年度社会福祉法人指導監査における是正・改善状況の報告 <p>理事長専決事項報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ①事務決裁規程の制定 ②備品管理規程の制定 ③公印管理規程の一部改正 ④特定個人情報等取扱規程の制定

	⑤旅費規程の一部改正 ⑥慶弔規程の一部改正 ⑦文書保存規程の制定 ⑧法令遵守マニュアルの改正 その他①利用者家族から寄せられた苦情への対応
--	---

(3) 監事会

	日付	指 摘 事 項
1	H27. 5. 12	第1回監事会 ○特記事項なし。
2	H27. 8. 27	第2回監事会 <u>総評</u> ○平成26年度の決算は赤字となり、厳しい状況であったが、27年度7月期の経営状況は、前年度に比べ利用率の向上、収益性の改善がみられ、役職員の経営努力に敬意を表します。 年度通期の収益増加に一層の努力を期待します。 <u>個別意見</u> ○事故報告：期間中事故報告が70数件上がっている。しかし事故の原因把握が十分に把握されていないケースが見受けられる。事故処理は、原因究明が重要であり、それにより再発防止策を立てることが肝要であるので、事故処理の対応に遺憾のないよう取り組んでいただきたい。 ○入居者の離苑事例： 職員が気付かないときに、入居者が自宅へ帰っていたケースが報告されている。事故につながるケースも想定されるので、入居者の把握に十分留意されたい。
3	H27. 11. 9	第3回監事会 ○特記事項なし。
4	H27. 11. 27	第4回監事会 <u>個別意見</u> ○不用となって倉庫に保管している固定資産が存在していたが、除却処分をされることが適当と思慮します。 ○いわゆる消耗備品について、帳簿上の管理がされてなく資産の管理が不十分と認めました。備品規程等を制定し資産管理をされることが適当と思慮します。

5	H28. 3. 14	<p>第5回監事会 総評</p> <p>○交通事故について 交通事故が2件報告されていた。公務、通勤等の交通事故防止に努められたい。</p> <p>○役員会等の旅費支給について 出席予定者の旅費をあらかじめ準備していたところ、出席予定者の欠席また欠席予定者の出席により、予定旅費との差額が生じ相殺支給をしているが、追加の支給と戻し入れ処理による経理をされたい。</p> <p>○領収書と請求書の管理について 支払関係の書類の保管で、請求書と領収書が別々に保管されているが、セットにして保管されてはどうか。</p> <p>○支払稟議書の記載について 出張等の経費稟議の記載で、行先が不明のもの等があり、不明瞭である案件が見受けられた。稟議書には「何時、誰が、どこで、何をしたか」等の要件を記載することが望ましい。</p>
---	------------	---

(4) 第三者委員会

日付		内 容
1	H27. 12. 7	苦情受付の報告等 ①苦情申出内容の報告 ②施設における対応状況 ③今後の第三者委員会の進め方
2	H27. 12. 29	申出人及び法人理事長へ調査の報告

4. 法人主体行事・事業等

日付		内 容
1	H27. 4. 1	辞令交付式
2	H27. 6. 18	国交省の施設視察
3	H27. 6. 25	障害者雇用納付金等に関する調査
4	H27. 8. 1	福祉の就職フェア参加
5	H27. 8. 25	八頭町より無償借用していた送迎車両を返却(廃車処理)
6	H27. 8. 28	全施設の火災通報装置連動工事
7	H27. 8. 30	すこやか合同納涼祭
8	H27. 9. 19	きたやまふれあい祭り
9	H27. 9. 27	28年新卒採用試験(4名内定)
10	H27. 10. 23	正職員登用試験(登用4名)
11	H27. 11. 13	東部福祉保健事務所 実地指導(ケアハウス)
12	H27. 11. 21	特養すこやか 秋祭り
13	H27. 11. 30	正職員登用試験(登用1名)
14	H27. 12. 30	特養すこやか地域交流室へ寄付で頂いた絵画4枚を設置

15	H28. 1. 5	安全祈願祭、新年仕事始め式
16	H28. 1. 26	県福祉保健課 平成 27 年度社会福祉法人指導監査(平成 26 年度)
17	H28. 2. 2～2. 3	東部福祉保健事務所 集団指導(全事業所)
18	H28. 3. 16	ケアハウス 実地指導改善報告書提出(東部福祉保健事務所)
19	H28. 3. 30	本部 社会福祉法人指導監査是正・改善報告書提出(県福祉保健課)

5. 役員・施設長・医師研修等

日付		会議・研修名	場所	参加者
1	H27. 4. 7	E 式合同考課者研修	京都市	森本常務、井上施設長
2	H27. 8. 18	福祉サービス苦情解決事業研修	ハワイアロハホール	山根施設長、井上施設長 (苦情解決第三者委員) 澤田
3	H27. 8. 19	評価研修会	伯耆しあわせの郷	山根施設長
4	H27. 9. 3 ～9. 4	全国老人保健施設大会神奈川 in 横浜	横浜市	森本常務、浜岡施設長、井上医師
5	H27. 9. 10	社会福祉法人経営者セミナー	福祉人材研修センター	森本常務
6	H27. 9. 18	福祉レクリエーション	福祉人材研修センター	井上施設長
7	H27. 10. 9 ～10. 10	オールジャパンケアコンテスト	米子コンベンションセンター	山根理事長
8	H27. 10. 10	〃	〃	森本常務、井上施設長、山根施設長 (監事)山根貴 (評議員)垣田、西村、西山
9	H27. 12. 18	老人福祉施設職員研修会 介護保険事業の長期安定経営	福祉人材研修センター	山根施設長
10	H28. 2. 25	社会福祉法人制度改革対策セミナー	福祉人材研修センター	森本専務

6. 教育事業

(1) 平成 27 年度研修参加実績

○外部研修

主 催		回数	参加人数	内 容
1	鳥取県	7 回	20 名	感染対策、虐待防止、認知症介護実践者、介護認定調査員現任、スキルアップ 等

2	全国・鳥取県老人福祉施設協議会	3回	4名	施設職員(看護・介護)、中国大会等
3	全国・鳥取県老人保健施設協会	3回	5名	老健大会、リハビリ等
4	鳥取県社会福祉協議会	33回	52名	経営者、階層別、キャリアパス、介護専門職、介護支援専門員、法人会計実務、決算、ボランティア、職場環境改善、法律知識、労務管理、食中毒防止等
5	小規模多機能型居宅介護事業所連絡会	3回	3名	評価、共生ホーム実践塾、多職種連携
6	日本・鳥取県介護福祉士会	2回	2名	ファーストステップ、介護福祉士養成実習施設実習指導者
7	その他	37回	65名	オールジャパンケアコンテスト、ハラスメント防止、ユニットリーダー等
計		88回	151名	

○内部研修

	主 催	回数	参加人数	内 容
1	法人研修	14回	531名	採用職員研修、交通安全講習、法令順守等研修、人権研修等

7. 福利厚生

	日付	内 容	実施場所	人 数
1	H27.4.3	夜勤者・新入職員健康診断	老健	76名
2	H27.4.20	夜勤者・新入職員健康診断	特養	
3	H27.9.29	健康診断	老健	215名
4	H27.10.5	健康診断	特養	
5	H27.10.26	健康診断	特養	
6	H27.5.15	岡崎倫典ライブ	特養地域交流室	
7	H27.10.15・22	インフルエンザ予防接種 (井上医師)	特養医務室	全職員

8. 施設(事業) ごとの報告

(1) 介護老人保健施設

目 標 項 目	実 績
①自立生活と在宅復帰への支援。	1. 入所者の状態と家庭介護力、家庭環境を考慮して在宅復帰可能者を抽出し在宅復帰の取り組みを実施した。(在宅復帰率 10%) 2. 在宅復帰チームを立ち上げ、在宅復帰の実践体制確立の取組を行った。 3. 入所期間が長期になっている入所者や家族に在宅復帰、特養入居について説明を実施した。
②チームケアの実践	1. 毎月、チーム会で入所者への排泄ケア等の振り返りや改善を行うことによりチームケアを展開した。
③個別介護の充実	1. チームケア、担当制の実践強化し、利用者の思いをより把握して個別介護に取り組んだ。
④職員のレベルアップ	1. アセスメント力の向上、在宅サービスとの連携に努めた。 2. ひやりハット・事故報告書の事例を基に是正方法を継続的に指導したが、全体への周知徹底しきれなかった。
⑤感染症の防止	1. 予防に努めたが、インフルエンザ感染が入所者、職員に多発した。 2. マニュアルに沿い面会制限等の対応を実施し、感染の拡大防止に努めた。

(2) 特別養護老人ホーム

目 標 項 目	実 績
①基本ケアの充実	1. 水分を1日1, 500ml以上摂取する。 ・制限のない方に対し1, 500mlの水分提供を実施し利用者の健康管理および脱水予防を支援することができた。 2. 口腔ケアと食事環境の充実を図り、常食化する。 ・歯科衛生士を招き、介護職員が利用者にケアするところを直接見てもらい、指導を受け適切な口腔ケア方法について学ぶことができた。また指導の様子をビデオ撮影し、指導時に同席できなかった職員に見てもらうことで、職員全体に周知を図った。 3. 水分摂取と運動を促しトイレ誘導の習慣をつけ自然排便を促す。 ・各ユニットで自然排便を促す対象者を決め、日々の生活の中で水分の十分な摂取と運動およびトイレ誘導を行った。その結果1名の方について下剤に頼らないトイレでの自然排便に繋げることができた。 4. 立位の取れる人は歩くことができるように支援する。 ・利用者の中で立位の安定している方に対し立位保持および歩行訓練を試みた。歩行に繋がった方は3名の結果となったが、心身の状態が改善したことは大きな成果と捉えている。上記自然排便と同様に成功例をユニット間で共有し、どのユニットでも実施できる体制をとっていきたい。

<p>②職員資質の向上・人材育成</p>	<p>1. 職員の専門知識取得のため研修へ、積極的な参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護に係る排泄、口腔ケア、移乗介助、ポジショニングをはじめ介護記録の書き方、更に感染予防、食中毒予防、リスク管理、嚥下障害など事故や怪我を未然に防ぐための研修にも積極的に参加している。危機意識向上のため甲種防火管理者講習、安全運転管理者講習にも参加している。平成27年度の研修参加実績は29項目に渡り、参加延人数は54名である。 ・研修で得た知識や経験を参考に、昨年度はマニュアル整備にも取り組んだ。食事、入浴、排泄などすでに作成されている分野を再確認し、整備できていないケアプラン、外泊・外出について、サービス向上委員会が中心となってマニュアルを作成した。 <p>2. 各委員会が実施主体となり、必要に応じて施設内研修を開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は11回に渡り施設内研修を実施した。施設外研修で学んだことを1人でも多く施設内職員に伝え、介護サービス向上に繋げるため毎月1回実施した。研修内容は様々で13項目に及ぶ。 <p>3. 認知症介護実践者・リーダー研修、実習指導者養成研修、施設として必要とされる研修へ参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症介護実践者研修に2名参加し主任および中堅職員の資質向上に努めている。来年度以降も実践者および実践者リーダー研修への参加を積極的に促進する。 <p>4. 伝達講習会の充実。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修員会が中心となって活動しているが、口腔機能維持管理委員会、感染対策・安全衛生委員会、リスク委員会、栄養サポート委員会など他の委員会と連携し施設内研修の充実に取り組んだ。 <p>5. 他施設との交流。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護技術向上のために参加している介護力向上講習会が他施設との交流の機会となり、意見や情報を入手している。その延長として兵庫県内の特養への施設見学が実現し、他施設のユニット介護の状況を見ることができた。今後も志を同じくする当講習会の参加施設を中心に交流を重ね介護サービスの向上に繋げる。
<p>③地域との連携及び貢献</p>	<p>1. 委員会を中心に地域資源を把握し、積極的なボランティアの受け入れ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域交流ボランティア委員会を中心に年間を通して複数のボランティア団体や個人でのボランティアの受け入れを行っている。利用者が普段の施設内での生活では経験できない体験をして頂ける良い機会となっている。また施設の中を外部の方に見て頂くことは大変重要であり、年度末に実施したボランティア交流会を通して様々な意見を頂いている。今後も外部の方々の意見を参考に地域との交流を深め信頼関係を作ることが大切である。 <p>2. 交流学习や介護体験学習・介護実習を受け入れ子育て支援に貢献。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の保育園をはじめ、郡家小学校、八頭中学校、鳥取社会福祉専門学校、鳥取環境大学と幅広く交流や受入を行っている。保育園児や小学生の子供たちとの触れ合う機会は世代間交流として入居者のにとって大切である。中学生にあっては将来の介護士となる可能性もあ

	<p>り介護の魅力伝えることが施設の責任と考える。介護士人材難の状況であるため、専門学校や環境大学生は介護士採用に繋げる重要な機会として捉え、就職先として選ばれるよう適切な実習指導を行わなければならない。学生を指導するためには指導者自身が介護に対する理解を深める必要があり、職員の資質向上につながる。</p>
<p>④安定的経営のための改善等</p>	<p>1. 収入の確保。</p> <p>(1) 長期入所利用率96.5%を確保するとともに、短期入所利用率の向上を図るため入退所を円滑に行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度の長期入居利用率は94.2%と目標値を下回る結果となった。平成24年度から平成26年度までの年間退居者数は平均19名であるが平成27年度は31名に上る。相談員をはじめケアマネジャー、医務科、介護科いずれも経験したことない退居者数となり、新規入居の状況調査、契約手続きが追い付いていない状況であったと分析する。短期入所6床については既存客に加えて新規開拓により前年度を上回り、長期入所の低迷分を補填に貢献できた。 <p>(2) 各加算の算定要件確保のための体制維持を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士の確保およびケース会議実施により、サービス提供体制強化加算、看護体制加算、夜勤配置加算、個別機能訓練加算、栄養ケアマネジメント加算、口腔衛生管理体制加算を算定している。今後も算定要件を満たすよう体制および記録の整備に努める。 <p>(3) 重度要介護高齢者の受け入れに努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記加算に加え要介護4から要介護5の重度者受け入れを積極的に行い、年間を通して日常生活継続支援加算を算定することができた。 <p>2. 経費節減。</p> <p>(1) 消耗品の使用統一を図り、無駄使いを防ぐ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な取り組みとして、コピー用紙を減らすため、印刷内容によっては裏紙使用に努めている。光熱水費については使用量を確認し数値をグラフ化している。不自然な動きが確認された場合は漏水等の有無を確認することとしている。 <p>(2) 不要箇所の消灯を徹底する等、節電に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段人通りの少ない廊下やスペースの照明をこまめに消し、事務所、相談室などは退出時にエアコン、照明を消すよう努めている。またデマンド監視装置を活用し使用量が大きいときは事務所内エアコン操作盤から温度管理し使用電力量を押さえている。 <p>3. 施設設備の保守・点検・更新等。</p> <p>(1) 長年使用し不具合が生じた設備電気製品の入れ替えを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗濯機、エアコン、風呂など故障発生時には随時対応し、不具合の状態および専門業者の点検内容から修理または更新を判断している。長期間の設備等の不具合は介護現場にとって非効率であり、ストレスにもつながるため迅速な対応に努めている。 <p>4. 人材確保。</p> <p>(1) 運営上必要な人材・人員を確保し、経営の安定を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して複数の看護師および介護士の退職があったが、法人本部の支援を得て人員補充に対応してい

	<p>る。専門学校等からの実習生、卒業生の紹介が1人でも多くなるよう、卒業式、入学式に積極的に参加している。介護専門学校からの実習生受け入れは採用に繋がるケースが多いため可能な限り実習ができるよう調整を行っている。</p> <p>5. 委員会活動の充実。</p> <p>(1) 委員会主体の各種研修会を計画、実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設内研修および伝達講習と同様
⑤安全衛生・災害対策	<p>1. 福祉用具の活用による腰痛の予防。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度購入の移乗リフトは必要時に使用している。腰への負担が大きい介助時は1人で無理に行わず2人介助を行うようリーダー会、ユニット会を通じて促している。 <p>2. 防災訓練や講習の定期的な実施により、災害時の効果的な対応への取り組み。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度では介護職員2名が甲種防火管理者講習会に参加し修了証を取得している。消防訓練は昼間想定と夜間想定を2回を実施し、内1回は消防署立会のもとで実施した。消防署の方より次回に向けてのアドバイスを頂いており改善に繋げていきたい。更に甲種防火管理者講習会を修了した上記2名の介護職員が中心となって、防災設備についての施設内研修を実施し防災意識の向上に努めた。

(3) 地域密着型介護施設

◎小規模特別養護老人ホーム

目 標 項 目	実 績
①ケアプランの充実及びそれに基づく介護の提供	1. 利用者本人の希望や要望をできる限り聴きとり、本人の想いをプランに反映させられるよう取り組んだ。記録のチェック欄の活用等、ケアプランを意識した介護を確実にできるよう取り組んだ。
②提供するケアサービスの質の向上	1. 職員の介護力向上のため勉強会の開催に力をいれ、ポジショニングや看取り等、6回実施した。外部研修参加は11回と予定より少なかったが、中国地区大会や全国大会等、大規模な大会へも参加した。介護福祉士国家試験に4名挑戦し、4名全員合格することができた。
③リスクマネジメントの強化	1. ヒヤリハットや事故の原因を分析し、危険のある行動を予測して対応するよう努めた。事故予防の対策を職員で話しあい、情報共有を行った。感染症予防のための対策会議を早期に開催し、職員間で周知、徹底をした。発熱等があった場合、速やかに受診、居室対応、消毒、清掃、職員の出勤停止等の対応を行い、感染症の流行予防に努めることができた。

◎小規模多機能型居宅介護施設

目 標 項 目	実 績
①イベント開催や地域行事への参加を通して、積極的に地域住民との相互交流を行い、地域に開かれた事業所として地域住民の集いの場を目指す。	1. 9月に「きたやまふれあい祭り」を開催し、利用者家族や近隣住民等、多くの方に参加していただいた。町内会の清掃活動へは職員が2回参加を行えたが、地域行事への利用者参加は行えなかった。定期開催を予定していた地域住民を招いてのイベント活動は1回のみで開催となった。ボランティアの受け入れを積極的に行い、新たに3団体19名の方に参加していただいた。
②職員個人の介護レベル及びチーム力の向上を図り、利用者と家族から信頼され、満足度の向上に繋がるような質の高いサービスの提供。	1. 定例のスタッフ会議を中心に、日々の課題について職員全員で改善案を検討しあい、意識統一を図ることでチーム力の向上に取り組んだ。職員の欠員等により積極的な外部研修への参加、勉強会の開催が行えず、事務職員含め計15回の参加となった。介護レベル向上については職場全体での取り組みが薄くなり、自己研鑽によるところが中心となったため、個々の差が大きく出てしまった。家族との情報交換を積極的に行い、家族の意向を速やかにケアに反映できるよう取り組んだ。
③安心して在宅での生活が続けられるように、利用者と家族の双方を支援。	1. 利用者及び介護家族の入退院等、体調変化があった際には本人の意向を踏まえつつ、介護サービスの内容について利用日や時間の変更、泊り、訪問の追加等、じっくりと話し合い対応した。緊急の利用変更や訪問依頼等できる限り対応し、利用者や家族双方の負担軽減に務めることができた。

(4) 通所・訪問・居宅サービス

◎通所介護事業所

目 標 項 目	実 績
①介護予防事業の企画・実施	1. 八頭町より「はつらつ教室」を受託し、3クール(10名×12回/クール)実施した。 2. 地域の方々へ元気道場を開放し、自主予防活動援助ができた。(登録会員24名)
②利用者の増員と確保	1. 27年度通所介護事業所意見交換会を開催。 八頭町、若桜町のケアマネージャー等の参加あり。 利用者(要支援者)の紹介が増加した。(特に若桜町の利用者増加) 2. 既存利用者の利用回数増の継続的見直し実施。 3. 冬期の利用中止、休止が例年より多く利用率低迷した。
③職員のレベルアップ	1. 認知症に関する寸劇を利用者に対し実施することで認知症の理解が深まった。 2. オールジャパンケアコンテストに職員1名が出場した。

◎通所リハビリテーション

目 標 項 目	実 績
①生活機能の維持向上をめざしたリハビリの実施	1. 「遊ビリ、家事ビリ」など新しい取り組みを実施し、生活機能維持の向上に努めた。 2. リハビリの療法士と利用者宅を訪問して生活に即した訓練計画をたて実践した。

②通所介護事業所や居宅支援、訪問介護事業所連携	1. 安心、安全な在宅生活ができるように介護支援専門員、ヘルパー等と共通の利用者について情報交換を行い、事業所間の連携を図った。 2. 毎月、実績報告を兼ねて包括支援センター等を訪問し情報交換を行った。
③職員のレベルアップ	1. 療法士と定期的にケース検討会議を開催し、リハビリ及びケアについて振り返ることで、知識、技術の充実に取り組めた。

◎訪問介護事業所

目 標 項 目	実 績
①在宅生活継続の視点で援助	1. 在宅生活の継続の視点での援助は利用者のニーズとのギャップがあり適切な援助につながりにくかった。
②新規利用者獲得	1. 「あったかサポート」、支援センター等に訪問することで広報したが、新規利用者獲得に繋がらなかった。
③職員のレベルアップ	1. トピックスで事業所内の勉強会に取り組んだが十分ではなかった。

◎居宅介護支援事業所

目 標 項 目	実 績
①行政（保険者）、医療（病院）等の関係機関との連携強化	1. 利用者の入退院時、医療機関、介護保険事業者等と情報交換を行い連携を図った。 2. 利用者の病院受診等に同行、主治医との情報交換するなどして状態把握した。 3. 要支援者の援助計画作成業務を受託し介護予防に努めることができた。
②法人内事業所の売り（強み）の構築と改善と質の向上協力	1. 利用者及び家族のニーズ等を法人内事業所へ伝えたが、強み（事業所の特長）の構築に結び付く有効な助言にはいたらなかった。
③介護支援専門員として資質の向上を図る	1. 地域包括支援センター主催の介護支援専門員連絡会（研修、勉強会）へ参加。 2. 事業所内で定例会開催と作成した計画書を介護支援専門員同士で確認し合いケアプランの充実に図った。

(5) ケアハウス

目 標 項 目	実 績
①自立支援と介護予防への取り組み。	1. 入居者の状態を把握し、個々に沿った施設支援計画書を全員分作成。 2. 毎日健康体操を行い、レクリエーションを定期的実施。 3. 趣味活動等への取り組みを支援。
②衛生管理、災害対策	1. 館内を毎日清掃し、清潔に保ち衛生を維持。 2. 感染予防対策の消毒を全入居者に実施。 3. 災害発生時における災害訓練等を2回実施。

③空床ゼロへの取り組み	<ol style="list-style-type: none"> 1. 東部地域の支援センター、ケアマネ等と定期的に情報交換。 2. 入居申込者や待機者の動向を把握し、早期に入居できるよう東部地域の支援センター、ケアマネ等と連携を図る。
④職員のレベルアップ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法人内研修、外部研修に参加。 2. 職員1名、介護福祉士合格。